

# 効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名			担当室
平成30年度	市単	赤目チャレンジステーション整備事業			観光交流室
事業実績額(円)		63,878,000			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	元気創造プロジェクト			
	基本的な方向	地域産品、地域資源を活用した”名張ブランド”の創出/自然・食・歴史・文化などを活用した観光戦略の推進/シティプロモーションの展開			
	具体的な施策	多様な世代の転入促進を図る情報の発信及び移住に関する相談受入体制の強化 「訪れてよし」「住んでよし」「招いてよし」の観光都市 名張の実現			
事業期間		平成30年度			
事業の目的		赤目四十八滝キャンプ場として利用していた施設を様々なニーズに対応すべく「赤目四十八滝チャレンジステーション」として幅広い用途に利用できるよう機能向上を図るための新築・改修整備を行い、自然体験・移住体験はもとより、都市部住民の農山村体験や、大学のフィールドワークの受入にも対応できるよう整備を行います。 整備内容は、ベッドや空調設備を設置した宿泊棟4棟を新築し、調理等に外壁を設置します。			
重要業績評価指標(KPI)	指標		基準値(H31.3)	目標値(H31.3)	実績値(事業終了時)
	赤目四十八滝チャレンジステーションにおける研修を終えた新規就農者数		0人	-	-
	赤目地域への年間転入者数		55人	-	-
	赤目四十八滝チャレンジステーションの年間利用者数		3,306人	-	-
平成30年度の取組概要		赤目四十八滝キャンプ場を幅広い利用用途に衣替えし、「赤目四十八滝チャレンジステーション」として整備を行いました。移住体験、農林業体験はもとより、都市部に住む子供たちの農山村体験の実施や、大学生によるフィールドワークの受入等に対応するため、宿泊棟、調理等を再整備し、機能向上を行いました。			
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和元年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生交付金を活用した事業については、予算の使い残しが無いように工夫をしてほしい。計画どおりの整備、あるいは指標の目標値が達成できていたとしても、それにとどまらず、地域に還元できるように取り組んでほしい。</li> <li>・赤目四十八滝キャンプ場がリニューアルされ、観光施設としての活用以外に、教育施設として利用できないか。市内の児童生徒が利用することで、施設の稼働率が上がり、効果的だと思う。</li> <li>・名張の観光に赤目地域は重要な位置付けとなっているが、赤目への観光客が、そこだけで終わらないよう、それ以外の地域の観光地や商店とも繋げるように、もっと総合的なビジョンで盛り上げる必要があると思う。</li> <li>・今の時代では、情報発信のツールとしてSNSの効果は絶大。ガイドブックなどより、インスタグラムやツイッターなどでの拡散が主流。赤目も忍者修行の場として発信もしているが、名張だけではなく、伊賀市など近隣市ともタイアップして連携していければ効果的だと思う。</li> </ul>			
結果の公表	令和元年9月以降 ホームページで公表予定				
市議会による効果検証の有無		有 ・ 無 ( 時期 : 令和元年8月 )			
総合評価		効果の有無はまだわからない			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			